Star Fish Journal

2012年12月アーカイブ

夜祭（夜）

tsuji (2012年12月21日 14:52) | コメント(0) | トラックバック(0)

御旅所へこの坂を夜になって
登り、全部登り終えて、真夜中に
引き返してくる。そこまでは見る人は、
私が夜は何時ぐらいになるのですかと
尋ねると、団体さんなどはそこまで
あまりいないという様には、言って
いました。



まだ、この時間はたくさん見られる
桟敷へは見物客は来ていません。
去年**秩父夜祭**に来た時には駅の辺りから人
も多く、道も動けず、ディナーを食べて帰った
ので、今年は宿をとりましたと、練馬
から娘さんと来た方が話していました。



行きに切手を買った我が家に
なじみがもしかしたらあるのかと
思ったお寺で、温かいお茶で、休ん
でいるとお寺の門が閉まって
しまいました。

この場所で、地震の影響もあり
立て直すという市役所の店にいつもはいて、
お菓子を売っている方から、寒いのでお茶
などを買ったりして話し、外は人がたくさんで
通行止めもあると聞き、ここの空間に
夜まで、まだ2時間ほどあるという
ことでしたが、いることにしました。

カテゴリ

月別 アーカイブ

2013年1月 (1)
2012年12月 (5)
2012年11月 (6)
2012年10月 (4)
2012年9月 (6)
2012年8月 (5)
2012年7月 (6)
2012年6月 (7)
2012年5月 (4)
2012年4月 (6)
2012年3月 (6)
2012年2月 (6)
2012年1月 (8)
2011年12月 (9)
2011年11月 (5)
2011年6月 (3)
2011年5月 (1)
2011年3月 (1)
2011年2月 (4)
2011年1月 (7)
2010年12月 (6)
2010年11月 (4)

ウェブページ

このブログを購読

POWERED BY MT 5 MOVABLE TYPE®

検索

検索

このアーカイブについて

このページには、**2012年12月**に書かれたブログ記事が新しい順に公開されています。

前のアーカイブは2012年11月です。

次のアーカイブは2013年1月です。

最近のコンテンツはインデックスページで見られます。過去に書かれたものはアーカイブのページで見られます。



座っている間にも、散発的に花火が
あがりました。



じきに屋台曳き廻しが、花火と一緒の
風景の中、団子坂にちょうど登る所を
このスペースから見ることができました。



暗いので、上町屋台、中近笠鉾、下郷笠鉾、
中町屋台、本町屋台、宮地屋台と
引き回されますが区別できるでしょうか？





交差点で屋台を人が走ったりして動いて
きて、一時止まり、方向転換の仕方、
傾くところがすごく特徴的でした。



屋台曳行で花火もそのタイミングで打ち上
がったり、一時鳴り止んだりして、個人的に
綺麗だなと感じるものが一発目に上がる
ことが多く、温かい飲み物を境内のテントに
買いに行ってたり、見られたけれど
写せないものも多くありました。



少し距離があり遠いですが、良い場所で、
寒いですが、温かいものを手に取り、
見ることができました。



月の精の表し

tsuji (2012年12月14日 12:10) | コメント(0) | トラックバック(0)

世界中を遊び歩き、命が永遠である
ようにという思い。(楚人)



この日の平日の上野には、親子づれか
親が働いてる人の子供づれか
正面に見えている**東京国立博物館**に
向かうところです。



これを着てあなた様にお会いする。
竹製の行李に入れられていて、
胸の前で衽がつきあわせになり
両袖は平直で、腰と裾などはゆっくり
しています。



（魯の）貴族が腰や胸から垂らし身を
飾りました。



君主が娘の嫁入りに作らせたもので
あることが記されています。
食事には、まだこの時代では箸は食事
で使われず、指で料理を口に運ぶのが
普通でした。



王室では国家の大事から日常の生活
に至るまで、様々な事柄を占いました。
占いには主に亀の裏側の甲羅や牛ある
いは羊の肩胛骨を用い、これらを
加熱して生じるひび割れの形で
吉凶を判断しました。
占ったのち、ひび割れの周囲に占った
内容や結果を文字で刻みました。



腹部が豊満に膨らんでいます。壺を
前方に傾けると嘴から酒を注ぐことが
できます。愛嬌のある鳥の形に機能的な
工夫を随所に取り入れ、趣向と合理性が
バランスよく融合されていると言える
ようです。



曲裾深衣です。上下ひとつながりの着物で、
後ろの衽が長く三角形状に垂れるもので、
背後から前身頃までまわして着て、腰部を
大帯で縛ります。



夜行貝やアワビを貼り付けて花鳥の可憐な
姿を表し、地にラピスラズリ、トルコ石、
琥珀などの細片を散りばめた螺鈿鏡です。
外側の様々な国とも人の行き来や交易
などあり、シルクロードを通して
ローマやペルシャとも繋がっていました。



遠くからやって来た外交使節の歓迎行事、
各地を束ねる部下や豪族との会議、宴会
の折にお酒を酌み交わしながら、劇や
音楽の演奏もあったでしょう。
11点の青銅鈕鐘からなる編鐘は、全て
調音されています。二つの音の開きは
短三度で、一つの鐘で叩く位置により
二つの音がでます。22の高さの音が
可能です。



天衣をまとう楽人は、丸彫で四隅に配
され、縦笛、四弦琵琶、排簫、鼓を
演奏します。



国内の諸豪族をまとめるのに酒を飲みに
行ったり、共通の趣味の音楽で
個人的関係を図るでなく、国王の
治め方も、長い中国の歴史で国が一つだけ
でない時代も様々あります。
"関中侯"は曹操が新設した爵位で
上位から4番目に相当します。その
印章は金印と規定され、これのように
規定どおり金印であるのは稀で
貴重ということです。



ビーフストロガノフ



中国王朝の至宝が開催されている
平成館の他にも敷地には複数の
展示館があります。
和スタンプを円形のハガキに押して
デザインできるコーナーでは
アクセサリー造りが趣味のキャンベラ
からの彼女と話し、後ろで座っていた夫
は博物館や美術館の仕事をしている
ということでした。バイクの改造
が好きらしいですが、日本ではどこまで
合法化もあるとおもいました。
そちらでまたスイス人の若い方は日本
で旅館に泊まったり、後の滞在日程では
友達の家に行くということで、宿は安い
と言っていましたが、日本的な体験
をしたい様でした。



中の様子？

tsuji (2012年12月 7日 16:10) | コメント(0) | トラックバック(0)

中には王子様がいるかもしれません。



お父さんに何人もかはいれば、
王様が一人だけで眠っているか
言えませんし。



時代がかなり違いますが、
この頃、王子様が小学生を過ごしたら、
この建物で、平日は毎日勉強した
でしょうか？皇族です。



101号古墳です。



森の中の小湿地帯で、三脚を立てカメラを
構え、銀杏泥棒の証拠を写していた、
所有者の姿をカメラで追っていたのでなく、
バードウォッチングしている人たちに
何を追っているのか聞いたりして、
通りすぎました。旧御子神家、旧平野家に
出ました。



1751年建造の、土間の上に中二階を
つくる手法も取り入れられたせがい
づくりの農家です。





ドラムの里で木もれ日御膳をいただき
ました。



先の写真の岩屋古墳（龍角寺105号墳）は、
7世紀の方墳としては、用明天皇陵・推古天皇陵
を上回る日本一の規模を有しています。
龍の体の部所で、伝説で、近くにある有名な
お寺・龍角寺があり、龍腹寺と龍尾寺もある
ということです。そちらまで、足を延ばす
時間が今回はなかったのですが。



食事どき休んで、**房総のむら**
ふるさとの技体験エリア・映画やドラマの
撮影でよく使われていて、どんなサインを
するのか私はあまり知らなく、見られた方
のもありました。字がそれ程私はうまく
ないですし、それ（字を書く）以外のことで
商家の町並みで"道中財布"を縫いました。





木材を切り子供たちがサイコロを作って
いました。武家屋敷では着物や甲冑を
纏えるようです。



午前中に旧学習院初等科正堂で、中国人
の奥さんの旦那さんと、日本に来日した
奥さんの中国語の両親と、彼女は
日本語が話せさらに読めて、彼女を通して
皆さんとお話ができました。
水車小屋と農村歌舞伎舞台付近では、
京都の宝ヶ池だと話から思いますが、
環境関連の集まりで、明日成田を立つ
オランダ人の方と話せて、その間、
奥さんは京都の様々な場所を廻ることが
できたと言っていました。





農家に伝わる風習や悪魔退治（魔除）など、
どちらも生物本物でなく、金属など刺さって
いないので、もしそうなら怖く感じる
ことでしょう。

夜祭（昼）

tsuji (2012年12月 6日 11:39) | コメント(0) | トラックバック(0)

小さい時の話から、1度は見ておこう
と思っていました。学生の頃に

道を通ることなどもありましたが、
秩父夜祭を街を歩き回り、
昼は神社や各行事を屋台で買って
食べながら、訪れた人々外国人とも
出会いながら、見てきました。



夜には笠鉾屋台曳行の祭の人たちと
そこの車道の歩行者一時制限で
観光客は身動きが取れなくなる
様でした。



その時間帯は、私は
初でしたのでその様子が分からないというか
人ごみに押しつぶされずに済みました。
空間から花火との合わさった様子を温かいお茶や
おでんで、この特に寒い日では
ありましたが、過ごすことができました。



駅まで、電車を乗り継いでたどり着くと、
帰りの時刻表の載った紙をとってチェック
して、夜どれ程遅くまでお祭が開かれ、
予約や日程というところなど詰めては
いなかったのでどうするか、どうなる
だろうかという具合でした。





寒いので暖かいのが欲しく、角煮
おっきりこみうどんで食事を始めると、
そこの駅前から既に演奏が始まって
食べながら座って聞くことができました。

もらったパンフレットをそこで
見てみると、屋台芝居の終わってしまう
時間帯にも少しまだあったので、
そちらの会場となっている秩父神社に
途中で止まりながら、混雑には人の
早足で向かいました。

菅原伝授手習鑑



その後お参りを終え、テキサスから
来たというカップル（夫妻かは聞きません
でした）の方にお話を伺いました。
オースティンやテキサスのこと、
牛とスポーツでロングホーンズの名前
やヘルメットの模様などです。



今気づくと、テキサス州以外では馬も
多いです(3?)。神社の本殿の壁の主に
上の方には、様々な動物もありましたが、
そちらとその説明を見る前に、つなぎ
の龍のお守りをそれら幾つかある中
から選び買ってしまいました。



子育ての母親です

虎の群れの中に必ず一匹の豹を描くこと
が定法とされていたそうです。



お元気三猿

見て聞き話そう
お力を授けて下"さる"

こうしてブログを書いている時間
もありますが、見てきたことや
語ってくれたことを記したり、
聞いてくれる人が近くにも、
（距離の基準が難しいですが）
いればと思います。





夕刻に近づき、まだ見たり食べたり
しています。



縁の宿場を逆方向から

tsuji (2012年12月 1日 18:53) | コメント(0) | トラックバック(0)

この橋の名前は板橋ですが、
この橋より京よりを上宿、
江戸よりを中宿、平尾宿と称し、
三宿を総称して板橋です。





川越街道との分岐点の中山道を
江戸方面へ、そこまでは歩かない
ですが、昼でエビ海鮮あんかけご飯を
食べ腹ごしらえしまして、まず最初に
立ち寄ったのは、
（馬に乗っての訳でもちろん
ないので、疲れたら人だけ休む）



榎がいつの頃からか縁切榎と
呼ばれ、嫁入りの際には、縁が
短くなることを恐れてその下を
通らなかったそうです。
和宮下向の際には、榎をさける
迂回路がつくられ、またこの時に
榎を菰で覆ったとする伝承が
あるそうです。



この辺りが上宿です。
その左を少し入った辺り3階に
いたばしボローニャ子供絵本館
があります。



当日は一階内で小さい親子ずれを
対象とした催しがあり、早くついた
講師の方も、本を上がってきて
見ていましたし、お母さんが
お子さんに読んであげていました。
イタリア語を小さいうちから習わせて
いたわけでなく日本語ので、
私は英語のを見たのですが、日本のが
英語になったのもありました。



北イタリアのボローニャ市では
世界で唯一の児童書専門の見本市
ボローニャ児童図書展が開催されて
います。ネットだと中が分からないので、

本を買う選ぶ時に見れていいと
思いました。



こちらは文殊院の中にあります。
飯田家の菩提寺としての延命地蔵尊の
境内をひろげ建立されたそうです。







こちらが中宿と、
本陣のがあったという案内は、
逆方向から歩かない方がいいと、
感じました。



王子新道で左に折れる前あたりに
ある風景で、遍照寺です。





街道から外れたあたりには武家の
屋敷があり、参勤交代にも利用され
ていたようです。その跡になって
いる公園も狭くはないのですが
加賀前田家江戸下屋敷はかなりの
広さということです。



そこから、分譲などお寺がある辺を
抜けて再び旧中山道へもどりました。
近藤勇が、板橋なのですが、流山で
捉えられ、最後に幽閉されて過ごした
平尾宿の豊田家です。矢印の先に
入るで、"花"の暖簾のような所に、
彼が入れたのかどうか
今書いていて思いました。





だんだんとあたりも暗くなってきて
本日の一日も終わりに近づき、
近藤勇と数多くの新選組ゆかりの者たちが
祀られている（土方歳三の名前や発起人の
長倉新八）供養塔にてお参りしました。



途中、立ち見をしたりして、座って休ん
だりしませんでしたので、この付近で
マロンのミルク珈琲を、少し疲れたら
甘さも、砂糖を入れてくれと頼んでない
ですが、少し必要です。最後はむすびの
けやきで、縁で第一番目の宿場町板橋
でした。

« 2012年11月 | メインページ | アーカイブ | 2013年1月 »

Powered by Movable Type